

一般質問

子育て支援と福祉の充実

日本共産党秩父市議団 山中 進

問 大滝小・大滝中学校の将来像について、周りの意見より、保護者の皆さんや子どもたちの意見や考え方を中心に考えていくことが基本だ。行政主導ではなく計画性を持った取組みが求められるが。

答 保護者や地域の意見を十分尊重し、対応にあたりたい。

問 「子ども・子育て新システム」について、児童福祉法第24条に基づく市町村の保育の実施義務の放棄だ。責務は保育の必要度の認定と保護者向けの補助金支給などに限定され、保育の供給に補助的にかかわるだけになる。企業参入のための基準さえ満たせば、参入も撤退も自由という事業者指定制度が導入される。多くの問題が噴出してきている介護保険や障害者自立支援制度をモデルにしているもので、市町村の保育実施責任をなくし、直接契約、直接補助、応益負担を原則にしているが。

答 新システムについて、保育所などを利用される保護者、子どもたちに混乱が生じないよう、安心して利用できる保育環境が整えられることが重要である。

問 今度の介護保険改正の狙いは

要支援と認定された人から介護保険が使えない、要支援者のサービスを切り捨て、介護保険から除外できる仕組みとなっている。新たに規定された予防給付と生活支援の総合化について市の考えを聞きたい。

答 必要なサービスの整備・導入代替サービスの検討を行っていく。

問 視覚障害者への移動支援として燃料費補助ができないか。

答 同居親族に対し助成できるように検討していきたい。



保育園を選べるというが？
「子ども・子育て新システム」では不安

ありがとう ございました

定例会本会議開催日に、議長席脇机に3種類の盆栽を置きました。提供していただいた方は、大野原諏訪町会の田端貞さん、中村町会の岩田亨男さん、中村町会の新井清さんです。ありがとうございました。



新井 清さん提供

岩田亨男さん提供

田端 貞さん提供

12月定例会に提供していただいた盆栽

編集後記

昨年の夏は、震災の影響で節電意識が国民の間で定着した。計画停電・グリーンカーテン等で効果を狙い、みんなで節電に協力したと思う。

今、被災地では、暖房器具が足りずに変な生活を余儀なくされている。「のどもと過ぎれば熱さを忘れる」ということわざがある。私たちは、常にその過去を忘れることなく行動しなければならぬ。「ウォームビズ」という言葉もすでに死語になりつつある。厚着等の対策により節電を意識して、この冬を乗り切ろう。地球温暖化防止も、一人ひとりの小さな意識改革から始まるのでは。

平成24年1月 江田 治雄 記

編集委員

- | | |
|-------|-------|
| 委員長 | 江田 治雄 |
| 副委員長 | 新井 隆夫 |
| 委員 | 上林 彦夫 |
| ” ” ” | 山中 隆彦 |
| ” ” ” | 山久保 進 |